

メディカル・トップトラック制度の確立 (実施期間：平成18～22年度)

実施機関：東京医科歯科大学 難治疾患研究所（総括責任者：北嶋繁孝）

プロジェクトの概要

既に自主的に取り組んでいる独立教員制・6施設からなる高度研究支援コアを拡充し、既存の外部諮問委員会を基盤として、その上に「メディカル・トップトラック（MTT）制度」を確立する。メディカル・トップトラック（MTT）難治疾患研究テニユアシステムでは、医科学研究領域の若手を育成するため外部・内部審査委員から成る評価委員会を設立し、書類審査とプレゼンテーション（英語）による厳正な2階審査により多様かつ優秀な若手研究者を採用ならびに継続的に独立を支援する。業績評価とテニユア審査に加え、「国際アドバイザーパネル」を設立して一流海外研究者による直接的な指導により独立研究支援を行う。この評価も踏まえて、「MTT 推進委員会」で統合的育成を行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
B	b	b	b	b	b	a

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組も見られる）

(2) 評価コメント

中間評価での指摘に沿って全学展開に向けての組織改革や体制づくりを行ったことは評価できる。しかし、ジュニアとシニアの二段階トラック制を採用するメディカル・トップトラック制の効果や改善点に関する分析が十分になされておらず、テニユアトラック若手研究者（以下、「TT若手」という）の研究業績に差があり、TT若手の育成施策の実効性が明らかではない点などについて改善が必要である。

- ・**目標達成度**：トラック期間終了後に転出した複数の TT 若手はポストドクターとして採用されており、改善努力は見られるものの目標が達成されていない。実施期間終了後に継続するテニユアトラック制（以下、「TT制」という）において、更なる改善が必要である。
- ・**国際公募・選考・業績評価**：第2回以降の TT 若手公募において、国際性の担保や応募者数増大の努力が十分ではなく、女性研究者や外国籍研究者が採用されなかった。今後は、TT若手の公募・育成の方法について改善が必要である。
- ・**制度設計に基づく実施内容・実績**：グラントライティング講習、セミナーの企画・実施、アウトリーチ活動の支援など多面的な TT 若手育成策が実施されている点は評価できる。しかし、TT若手の転出先や自機関のテニユア職への採用状況などから判断すると、必ずしも効果が明確とはなっておらず、今後更なる改善が必要である。
- ・**制度設計に対するマネジメント**：本プロジェクトは部局採択であったが、全学展開への仕組み

づくりを行い、一定の成果を挙げている点は評価できる。一方、TT 若手について途中転職・辞職者率が高い状況となっており、今後の改善が必要である。

- **実施期間終了後における取組**：全学への展開の道筋を明らかにする努力は認められるものの、その実施の具体的方策が明らかではなく、具体的施策の立案とその実施が必要である。
- **中間評価の反映**：継続性については、実施期間最終年度に自主経費による TT 若手任用を開始し、TT 制の導入が中期目標・中期計画にも明記されていることは評価できる。今後は、機関内に TT 制が普及・定着することを期待する。